

令和8年4月2日

是枝裕和

「目標なのか結果なのか？」

○「IP360」によって支援されるのが大型作品(製作費8億円以上のブロックバスター作品)に限定されてしまい、逆に従来「JLOX」が行っていた製作費3~8億円規模の中規模作品への上限2億円(補助率1/2)の公的支援の枠組みが失われ、最も支援を必要としている次世代の才能に対し、空白地帯が生じてしまうのではないかと危惧しています。

○国際映画アーカイブ連盟への各機関からの年次報告書(※次ページを参照ください。)

優れたクリエイターを育てる為に、多くの中核的人材(スタッフ)が求められるのと同様、優れた作品(商品)を生むには、その揺籃として大切なものがあります。

次ページに掲げたのは国立映画アーカイブの年間予算の比較です。

それをコンテンツと呼ぶか文化・芸術と呼ぶかに関係なく、「歴史」を大切にしない国から優れた作品も作り手も生まれて来ないと思います。

コンテンツ関連予算が増額される中で、文化・芸術関連の予算は据え置かれるか、むしろ減額されるというのはバランスが悪すぎます。

是非、標準的な予算の確保と執行をお願いします。

国立劇場が休館したままの国がいくら声高にコンテンツを連呼しても説得力に欠けます。

○20兆円(実写映画に関しては5000億円)は目標ではなく結果ですよと、前回の会議の場でも確認させて頂きましたが、今回の配布資料の文言を拝見すると、完全に「目標」として掲げられたのだと、認識を改めました。

大変居心地が悪いです。なぜなら 少なくともクリエイターもスタッフも(恐らくは)この資料に記されているような「勝ち筋」などというものを考えながらものを作ってなどいないからです。

「20兆円」「勝ち筋」といった言葉によって、クリエイター側の人間が何かしらモチベーションを鼓舞される側面があるとしたら、それは稼いだ20兆円がクリエイターとそれを支えてくれるスタッフに、どのような形で、いくら還元されるのか?そのことによって、次の世代の作り手たちが夢や希望を持ってこの業界を選んでくれる—

そんな道筋が見えるということが大前提です。

15年前のクールジャパンの失敗を繰り返さない為に20兆円の「循環システム」を提示して下さい。

国際映画アーカイブ連盟加盟の映画アーカイブとの2024年予算比較			
国	フランス	韓国	台湾
機関名	シネマテーク・フランセーズ Cinémathèque française	韓国映像資料院 Korean Film Archive	國家電影及視聽文化中心 Taiwan Film and Audiovisual Institute
上部機関	国立映画センターおよび文化省	韓国文化体育観光部	中華民国(台湾)文化部
総予算(自 己収入含 む)	2,860万ユーロ = 52億7241万円 (1ユーロ = 184.35円換算)	14,857,000,000ウォン = 15億7466万円 (1ウォン = 0.1060円換算)	11,700,347(USD) = 18億6620万円 (1 USD = 159.5円換算)
国からの 予算	国立映画センター各種助成金含め 2,070万ユーロ = 38億1604万円	14,857,000,000ウォン = 15億7466万円	8,644,136 + 政府委託事業費 2,323,451 = 10,967,587(USD) = 17億4933万円
			オーストラリア オーストラリア国立フィルム・ア ンド・サウンド・アーカイブ National Film and Sound Archive of Australia オーストラリア連邦インフラ・運 輸・地域開発・通信・芸術省 4200万豪ドル = 46億4562万円 (1豪ドル = 110.61円換算)
			日本 国立映画アーカイブ National Film Archive of Japan 文化庁 約7億9,000万円
			約7億3,600万円

国際映画アーカイブ連盟への各機関からの年次報告書「FIAF Affiliates' Annual Reports - 2024」より作成